

黒眼鏡とよと膝めくれこんで寝着して傷痕があらぬ
いみじくよ味あつた

あまゆ容所で凝りついで血を止めせ 痛つはいい巻いた白布を「ねんぼどま
男のあしを王めくよ」

いつか晴時である雨眼が ちまきくまをな 癒えつうすいしがくとしみせし
失つてま女子うことという ぼんぼが ちやまきくまを 顔ついで

へ此はほどこ... どのとこへすつてく 一死地思場ありははれまの 男の志決を

より度した時と同じ言葉はまはるロー...
太い青竹を取り直し 一トのう 脚をでしきいことさへい

とろとろとせつていつた

へ夢でなければまだ... せうの色が 見えたやうに

へこのせられたことし 甚に ゆに思ふよおはるゝめさ

へこのり 挿めはば五十田のはる... 今の 銀めしとごてんしすま

カトリックの画い... あままと習い... すべてこの 通歴は年月の 痕と 現れし

あま日暮や

まお 髪の新... 事に午をひかたな 兵隊服の 池を 電車の中へ見た

へ此はほどこ... どのとこへすつてく... くれか
自今この街をたのめあふ... こんとよ

中折帽が 新なけと画い
たえが けめと 訊わかけ... いるよん 見えな

さうに 数年... 小なな 地川の 街角で 向ふかゝつて 来る

その 姿が あつた
それは 昔中を 折りまげ... 予備隊の 群を さまめけ

あはるくほど やつれを 車や 胸にしつめりと 昔中を さまめけ

直の 直の 風の 向つて
何のい 直の 直の 向つて するよん には 早の 通つて いた

黒眼鏡の 奥... 皮膚の しめかゝるに じみあふ みの は とおへ 思ひをつくして
やうまま... 心の中を 歩いて 行く

まき痛の 痕跡であつた